

大学院ニュースレター

久留米大学大学院医学研究科

第 55 号 / 2010 年 6 月 10 日発行

編集 / 医学研究科長

『卒後臨床研修医制度と指導医の役割』

外科学講座 木下 壽文 教授

2004年導入の新医師臨床研修制度は、内科、外科、救急（麻酔科）、小児科、産婦人科、精神科、地域保健・医療の7部門、最低16ヵ月のローテーションが必要とされた。この臨床研修医制度の導入など複数の要因により医学系大学院生も減少傾向にあり、特に基礎研究の必要性を感じない者も見られ、質の高い臨床医を目指す医師の増加傾向が見られている。その後、臨床研修医制度について医療関係者や卒業生などから研修体制の見直しの意見が出されたため、2010年4月以降、内科6ヵ月、救急3ヵ月、地域医療1ヵ月の計10ヶ月間のローテーションが必須とされ、外科、産婦人科、小児科、麻酔科、精神科の5診療科のうち2診療科のローテーション（期間は自由）が求められるのみとなっている。

このように、必須科目や研修期間は変更されたものの、研修の基本理念と到達目標は変わっていない。基本理念はプライマリケアの基本的な診療能力を身につけるということを謳ったままである。臨床研修必須化の目的である幅広い臨床能力を身につけた医師の養成が達成されたかどうかには、全く注意が払われていない。医学・医療技術の進歩あるいは卒前教育がもっと充実すれば、到達目標も見直す必要がある。今回の見直しは、コアを3つにする以外は自由であり、それが良い結果をもたらすかどうかは不透明である。私自身は、基本理念であるプライマリケアというも

のにあまりこだわりをもつのではなく、臨床判断ができるかどうかの方が重要だと思っている。

初期臨床研修期間は医師として基本的な知識を得て使いこなせるとともに、一社会人としての態度を身につけることが要求される期間でもある。研修の理念は、医師としての人格を涵養し、将来の専門性にかかわらず医学・医療の社会的ニーズを確認しつつ、日常診療で頻繁に遭遇する病気や病態に対応できるように基本的診察能力（知識、技能、態度）を身につけることである。初期臨床研修は医師としての第一歩であり、この短い期間に特有な技術を身につけることは不可能に近いと思われる。この2年間は、医師としての生涯の発展に大きな影響を及ぼすものであり、幅広い臨床能力を身につけてもらうことが国民によりよい医療を提供することにつながるだろう。

私は将来的には知識、技能、態度のバランスのとれた医師を養成することが必要と考える。そのためには、医師として生涯学習を始めるために必要な知識と技能を修得させ、医師として生涯学習を続けるために必要な態度と習慣を身につけさせることが重要である。また、生涯医師として社会生活を行うために必要な人間性と良識をしっかりと身につけさせることも大切であろう。

質の高い臨床研修を保証するためには、すべての指導医が自分自身の果たす役割につい

て共通の認識を持つ必要がある。指導の現場では常に研修医との良好な関係を保つ必要があり、そのためには個々の臨床技能（身体診察、コミュニケーション技法、臨床手技、臨床診断など）を身につけることが指導医に求められる。指導医が研修医に期待しているものは何なのか、その目的のためにどのようにするのが最良の方法なのか、自問あるいは他の指導者と話し合い意志の統一をしておく必要がある。臨床研修内容がどのように改善されても研修医の育成にあたる指導医の指導力

の向上が必要であり、また社会から人間として評価される医師を養成することが教育にあたるものの責務と考える。



『第21回医学教育ワークショップ開催決定!』

本学医学部ではこれまで二年に一度『医学教育ワークショップ』を開催し、現在の医学教育を見つめ直し、将来に向けた新しい教育の在り方について鋭意検討を重ねてまいりました。

第19回医学教育ワークショップより発足した「大学院部会」は、今回も大学院教育の成果を改めて検証し、問題点と改善策よりこれからの大学院教育展開について討議する予定です。

～「大学院部会」の概要は以下のとおりです～

【日 時】平成22年8月5日（木）～8月7日（土）

【場 所】唐津ロイヤルホテル（佐賀県唐津市東唐津 4-9-20）

【大学院部会テーマ】

「大学院教育の更なる充実を目指して」
～原点を見つめ直し、新たな展開を見出そう～



【討議内容】

- (1) 大学院教育の問題点と改善策
 - ・高度専門職業人育成の将来は？～これまでの実態と将来
 - ・学位をめぐる諸問題～甲号・乙号授与、学位取得促進、e-journalの是非
 - ・大学院教育の実質化は達成されたか
 - ・昼夜開講制について
 - ・看護修士課程のスタッフの充実の方策
- (2) 久留米大学大学院医学研究科の将来構想と実現に向けた体制
 - ・大学院教育研究支援体制の整備（今後の大学院GPの方向性、大学院特別補助金、特定看護師制度の行方、高度医学情報センター構想）
- (3) 基本構想策定教学部門～大学院医学研究科の検討課題について

現在、この大学院部会の参加者を募集しております。参加ご希望の方は6月14（月）までに医学部事務部教務課までお問い合わせください。

事務通信



◆博士課程の皆様へ◆

平成22年度 博士課程共通科目レポート提出期限について

博士課程共通科目を履修された方、前期レポートの提出期限が迫っています。提出先・レポート課題をご確認のうえ、所定の期日までにご提出ください。

「ゲノムドラフトの解明」

(科目責任者：古賀教授)

課題：2題

※課題の詳細については、履修者へ個別に通知済みです。

書式及び量：A4 5枚以内

提出期限：7月31日(土)

提出先：小児科医局

「遺伝子多型(SNPs)」レポート

(科目責任者：神田教授)

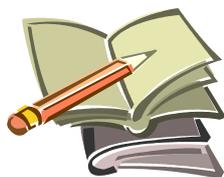
課題：Hap Map project Phrase II data について

※課題の詳細については、履修者へ個別に通知済みです。

書式及び量：A4 2～3枚

提出期限：6月30日(水) 17時

提出先：医学部事務部教務課



「ゲノム創薬の進歩」レポート

(科目責任者：児島教授)

課題：『ゲノム創薬について』

書式及び量：A4 5枚以内

提出期限：7月30日(金)

提出先：分子生命科学研究所 児島教授

「免疫関連分子とT細胞抗原レセプター多様性の解明」レポート

(科目責任者：伊東教授)

課題：5/10(月)講義時に提示済み

書式及び量：A4 1枚以上

枚数・文字制限なし

提出期限：8月30日(月)

提出先：免疫・免疫治療学 伊東教授

◆健康診断未受診者の方へ◆

医学部B棟1階保健室にて実施しております健康診断はお済みでしょうか？期日は6月18日(金)までとなっておりますので、まだの方はお早めに受診をお願い致します。やむを得ない理由で受診できなかった場合は、これに代わる証明書を7月9日(金)までに必ず保健室(健康・スポーツ科学センター旭町分室)へ提出してください。特に、働きながら大学院に来ている社会人入学の方は、職場で健康診断が行われていますので、その結果のコピーを保健室までご提出下さい。



◆現住所調査票未提出の方へ◆

修士課程・博士課程全大学院生の皆様へ「現住所調査票」を配布しております。未提出の方は、医学部事務部教務課へ至急ご送付ください。ご協力よろしく申し上げます。※以後現住所の変更がある場合は「学生現住所変更届」の提出が必要です(大学院HPよりダウンロード可)。

平成22年度 大学院セミナーシリーズ(特別講義) カリキュラム(前期)のお知らせ

担当講座	講義日時	会場	講演者	講義テーマ
麻酔学	6月15日(火) 18:00~19:30	教育1号館5階 1501教室	熊本大学大学院医学薬学 研究部 分子生理学・教授 富澤 一仁 氏	蛋白質導入法の開発 とその医学への応用
整形外科学(医療センター)	7月1日(木) 13:30~15:00	教育1号館5階 1501教室	九州大学大学院医学研究 院整形外科・教授 岩本 幸英 氏	大腿骨頭壊死症における 研究の進歩
法医学・人類遺伝学	7月1日(木) 16:00~17:30	教育1号館5階 1501教室	慶応義塾大学先端研 GSPセンター・名誉所長 清水 信義 氏	ヒトゲノムをもっと 極める
内科学(消化器内科部門)	9月16日(木) 17:00~18:30	教育1号館5階 1501教室	東海大学・教授 浅原 孝之 氏	血管内皮前駆細胞を用いた 再生医療

確定分(前期)をお知らせしております。日時・場所等に変更があったものにつきましては、確認でき次第、大学院医学研究科ホームページでお知らせいたします。また、当該科目履修者は5回以上のセミナー出席およびレポートの提出をお願いいたします。
レポートについては、各セミナー終了後1週間以内に、医学部事務部教務課までご提出ください。



編集後記

22年度がスタートして早くも3ヶ月が過ぎようとしています。4月より教務課：大学院事務担当を大石・中村・菅原の3人体制で行ってまいります。皆様のサポートに努めてまいりますので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

さて、今夏は二年に一度の医学教育ワークショップ開催年です。今後の大学院がどうあるべきか、教授から学生まで大々的に議論する機会は他にありません。皆様のご参加をお待ちしております。(菅)

